

参入企業の経営安定と地域農業の活性化

北淡路農業改良普及センター管内では、基幹作物であるタマネギの生産量が減少する一方で、耕作放棄地が増加する現状にある。当普及センターは、産地を維持し耕作放棄を解消するため、農業参入に熱意を持った地元企業を地域農業の新たな担い手と位置づけ、支援している。

新たな担い手の登場

地元参入企業は、①新事業にかける熱意を持ち、地域貢献にも積極的である、②従業員に地元農家出身者が多く一定の技術を有する、③資金力がある等の条件を備えている。半面、参入企業は、大規模に作付けした経験がなく、収益に直結する販売方法のノウハウに乏しいという課題もあり、所内で検討を重ねた結果、「経営力にすぐれた即戦力の新たな担い手」として育成支援に取り組んだ。

普及の挑戦

支援にあたり、総合的な支援体制を構築した上で、次の3項目に重点的に取り組んだ。①大規模機械化体系の構築（写真）、②迅速な経営計画の策定、③農商工連携による販売力の強化である。

1. タマネギ生産の担い手に成長

淡路市では、2011年から2013年までの3年間で、参入企業6社が15haの新規作付けを行い、「淡路島たまねぎ」10万トン復活における主要な担い手



写真 バックホーによるタマネギの運び出し作業

の一つに位置づけられるまでになった。

2. 参入企業の大半が順調な経営

農業参入後、3年以内の黒字化は一般的に難しいが、参入企業11社中2社が2年目の2012年度に黒字化した。また、10社は、参入時より農地規模を拡大し、経営を継続している。

3. 新しいフードチェーンシステム構築へ

参入企業が生産したタマネギは、農商工連携事業により島内の連携企業によって商品化され、参入企業は安定した販路を確保し経営の多角化を図った（図）。特に、タマネギ一玉分を入れた「淡路島カレー」は、関東、京阪神の150店舗以上の飲食店に供給されている。

今後の展開

今後も参入企業の規模拡大とフードチェーンシステムを進め、地域農業の活性化を図る。

山口 岳人（北淡路農業改良普及センター）

（問い合わせ先 電話：0799-62-0671）



図 新しいフードチェーンシステムモデル